8-4-9 国土基盤技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

技術委員会は統括技術委員会開催の翌月開催とし、計5回（令和6年5月13日、7月2日、9月3日、10月29日、令和7年1月14日）開催した。また、統括技術委員会からの依頼を受けて、メール等を活用し、意見照会、情報交換等を随時実施した。

(2) 専門委員会活動の情報共有

本委員会を構成する7専門委員会（河川計画、河川構造物、ダム・発電、港湾、砂防・急傾斜、海岸・海洋、土質・地質）の委員会活動、イベント・セミナー開催状況を共有し、同様の活動を行う際の参考とした。

また、各専門委員会で計画されたイベント・セミナーについては、随時、メール等による審議を行い、技術委員会の承認をとり、技術部会へ上申した。

(3) 統括技術委員会指示事項等の審議・対応

a) 歩掛・共通仕様書改訂要望

国土基盤技術系業務の歩掛・共通仕様書の改定について要望や意見を共有した。また、昨年度要望した砂防施設詳細設計に加えて、河川構造物設計の建築設計、地質調査業務、道路防災点検業務にかかわる改訂要望を、道路構造物専門委員会および土質・地質専門委員会が主体となり整理し、統括技術委員会を経て、国土交通省へ提出した。

b) 生産性向上WG

生産性向上SWGとして、河川構造物、ダム・発電、砂防・急傾斜の3専門委員会が中心となり、BIM/CIM 取り扱い要領の策定やCAD 製図基準の改定等に伴う意見照会やPTに参加し、各部門の設計現場の要望や意見を取りまとめ提出した。

(4) 外部機関からの依頼に対する対応

国土交通省等の関連外部機関が主催する委員会等の参加要請に対して、技術委員会内で対応

委員を調整し参加した。令和6年度に対応した主な委員会は次のとおりである。

- ・『第1～4回 河川技術評価委員会』のオブザーバーとして、河川計画、河川構造物、海岸・海洋の各専門委員会から参加。『砂防技術評価委員会』へ委員として、砂防・急傾斜専門委員会から参加。
- ・『ドローンを活用した河川巡視・点検への適用検討会』の委員として、河川構造物専門委員会から参加。
- ・『第32～34回 河川砂防技術基準検討委員会』の委員として、河川計画、ダム・発電の各専門委員会から参加。『トンネル構造による河川分科会』の委員として、河川構造物専門委員会から参加。
- ・土木学会『2024年河川技術に関するシンポジウム』に河川計画専門委員会が登壇。
- ・全国建設研修センター『河川整備計画・事業評価研修』の講師として、河川計画専門委員会が参加。
- ・『海岸技術者の人材強化を目的とした産学官で構成する委員会（うみじん）』の委員として、海岸・海洋専門委員会が参加。

2. 次年度活動について

令和7年度は、これまでの取組みを引き続き実施するとともに、各専門委員会活動を基本としながら、国土基盤技術委員会として、共同・連携した活動についても行っていく。

- ・事業計画に基づく技術委員会の定例的活動の実施。
- ・統括技術委員会からの指示事項、検討事項への対応。
- ・統括技術委員会への要望の検討、上程。
- ・イベント・セミナーの実施計画の審議と承認。
- ・国土交通省等からの依頼事項等への対応。
- ・その他、国土基盤技術分野関連に関わる諸課題への対応。

（国土基盤技術委員会委員長 大橋 広治）